



## 成績評価とGPA制度について

GPA (Grade Point Average) とは、アメリカなどで一般的に行われている学生の成績評価方法の一つであり、履修科目の成績の1単位あたりの成績平均を数値で表すもので、日本でもこの制度を導入する大学が増えています。学生への GPA の通知は、「履修登録 Web」等により行います。GPA の結果を学生自らが確認し、自分の履修計画の点検材料として積極的に活用してください。

なお、大学としては GPA を成績順位等の資料として活用し、学長賞・成績優秀者学業奨励賞などの選考に用います。また、GPA が低い (=成績評価が低い) 学生に対して、今後の履修計画等に関する修学指導の材料とします。

本学における GPA 制度及び履修登録の取扱等について、簡単に説明します。

### 成績評価と GP について

成績評価については、「A+, A, B+, B, C, D, F (未受験等または無資格を含む)」の7段階で評価し、D以上で合格となります。なお、成績証明書の記載は、合格した科目及び累積 GPA のみとなります。また、GP (Grade Point) としては、「A+は4.0, Aは3.5, B+は3.0, Bは2.5, Cは2.0, Dは1.0, F (未受験等または無資格を含む) は0.0」としています。

区分	成績記録	成績証明書	GP	評価基準
合格	A+	A+	4.0	到達目標を十分に達し、極めて優秀な成果を修めている。
	A	A	3.5	到達目標を十分に達し、優秀な成果を修めている。
	B+	B+	3.0	到達目標を十分に達している。
	B	B	2.5	到達目標に達している。
	C	C	2.0	不十分な点は認められるものの、到達目標に達している。
	D	D	1.0	到達目標を最低限達している。
不合格	F			到達目標に達していない。
	未受験等	記載しない	0.0	定期試験受験資格(※)はあるが、試験欠席・レポート未提出等により評価できない。
	無資格			定期試験受験資格(※)がなく、成績評価資格が無い。
履修取消	W	記載しない	対象外	履修取消により成績評価をせず、GPAの対象としない。

※定期試験受験資格：出席講数が規定授業講数（15講または30講）の2/3以上であること。

### 成績発表と成績確認申出について

前期、後期、通年科目の成績は、履修登録 Web で確認することができます。なお、自身の成績評価について確認したいことがある場合は、以下の手続きの流れによって成績照会をすることが可能です。

#### ■成績発表日

- ・前期科目：8/29 (木)
- ・後期・通年科目：2/17 (月)

#### ■成績確認申出

成績確認申出は前期、後期それぞれ期間が設定されています。この期間外は受付できませんので注意して下さい。

〔対象科目〕

- ・専任教員担当科目：直接教員に申し出ること。
- ・非常勤講師担当科目：教育支援課配布トレイにて配布する「成績照会願」用紙に必要事項を記入し、教育支援課②番窓口へ提出すること。

〔申出期間〕

- ・前期科目：8月29日（木）～9月6日（金）
- ・後期・通年科目：2月17日（月）～2月21日（金）【年度末卒業予定者】  
2月17日（月）～2月28日（金）【年度末卒業予定者以外】

## GPA 制度について

GPA (Grade Point Average) とは、履修した科目1単位あたりの成績平均点を算出する方法であり、GP に該当科目の単位数を乗じて合計し、総単位数で除して履修した科目1単位あたりの成績平均点を算出します。計算結果は小数点以下第3位を切り捨てて表記します。

【GPA 計算例】 $GPA = 27.0 \div 10 = 2.70$  (小数点以下第3位を切り捨て)

科目名	単位数	成績評価	GP	GP × 単位数
〇〇学 I	2	A	3.5	7.0
〇〇実技 I	2	C	2.0	4.0
〇〇の文化	2	F	0.0	0.0
〇〇概論	4	A+	4.0	16.0
合計	10			27.0

以上の計算方法を元に学期ごとや年度、または累積の GPA を算出します。ただし、GPA 算出に当たっては対象外科目も設定されています（以下、GPA 対象外科目を参照）

### ①学期 GPA

当該学期に履修し成績評価を受けた授業科目全体の GP 合計を当該学期の履修総単位数で除して算出します。

### ②年度 GPA

当該年度に履修し成績評価を受けた授業科目全体の GP 合計を当該年度の履修総単位数で除して算出します。

### ③累積 GPA

入学時から現在の学期までに履修し成績評価を受けた授業科目全体の GP 合計を入学時からの履修総単位数で除して算出します。

### ■ GPA 対象外科目

成績評価の無い認定科目	入学における単位認定科目、入学前に修得した単位認定科目、他大学との単位互換により修得した単位認定科目、検定認定等による外国語の単位認定科目、派遣留学等により修得した単位認定科目
成績評価付きで単位認定した科目	再入学・復学により既修得科目について成績評価付きで単位認定した科目
除外指定する科目 (教職に関する科目)	教職入門, 教育学, 教育史, 教育心理学 (※), 特別支援教育概論, 教育行政論, 教育社会学, 英語科教育法 I・II, 社会科教育法 I・II, 地理歴史科教育法, 公民科教育法, 商業科教育法 I・II, 情報科教育法 I・II, 英語科教育実践指導 I・II, 社会科教育実践指導 I・II, 道德教育の研究, 特別活動の研究, 教育方法論, 生活指導の研究, 教育相談論 (※), 教育実習事前事後指導, 教育実習 I・II, 教職実践演習
履修取消した科目	(以下、「履修取消について」を参照)

※心理・応用コミュニケーション学科生については、教育心理学は学科専門科目のため除外指定科目とはなりません。

※福祉心理学科生については、教育心理学及び教育相談論は学科専門科目のため除外指定科目とはなりません。

### ■再履修科目の取り扱い

履修した科目が不合格となった場合は、次年度以降に再度同じ科目を履修し単位を修得することができますが、再履修して単位を修得した場合においても、不合格となった年度の成績は GP = 0.0 として累積 GPA 等の算定対象となります。

## 履修取消について

「履修取消」とは、履修登録をして授業に出たものの授業の内容が学びたい内容と違っていたり、授業に十分ついていくことができないため履修科目数を減らしたいなど、受講目的が達成されないなどの理由で GPA の対象から外したい科目がある場合には、履修取消を申請（履修取消ができない科目以外）することにより、履修していた科目を放棄し GPA 算定の対象外とすることが可能となる制度です。ただし、指定された履修取消期間内に履修取消の申請手続きを行わない場合は、履修登録したすべての GPA 対象科目が GPA 算定の対象となります。履修取消は前期、後期それぞれ 2 科目まで可能です。前期は前期科目と通年科目、後期は後期科目と通年科目が対象です。なお、成績評価では履修取消 (W) = (Withdrawal) として表示され GPA 計算の対象外となります。

前期履修取消期間：6月20日(木)～6月21日(金)  
後期履修取消期間：11月21日(木)～11月22日(金)

### ■注意事項

- ①履修取消不可の科目もあるので注意すること。
  - i) 人数制限等のために事前登録をした科目
  - ii) 実習費・課程履修費徴収科目
  - iii) 集中講義科目
  - iv) GPA 除外指定科目
- ②履修取消をした科目について履修登録上は削除されませんので、取り消した科目も当該年度の履修登録の上限単位数に含まれます。従って、前期に履修取消をした単位数分を後期に追加登録することができません。
- ③前期に履修取消をしたからと言って当該年度中に同一科目を重複履修することはできません。
- ④病気、事故等やむを得ない事情で履修取消をしたい旨の願い出があり、副学長が認めた場合には履修取消期間以降においても履修を取り消すことが出来ます。
- ⑤卒業年次生の学生においては、履修取消により卒業に必要な単位数が不足して卒業延期となることのない様に十分注意すること。

## 成績不振学生に対する指導について

成績評価発表後、GPA が一定の基準以下の場合、成績不振学生として修学指導の対象となります。本学では、修業年限（4年）で卒業が難しいと判断した場合、留年しても卒業の見込みがない場合に下記の指導を行います。該当しないよう十分に注意してください。

### 1. 面談指導

学期 GPA が 1.60 を下回り修業年限（4年）での卒業が難しいと判断された場合、面談指導の対象となります。

### 2. 退学勧告

累積 GPA が 1.00 を下回り卒業の見込みがないと判断された場合、または、30単位未満除籍制度に該当する危険性があると判断された（1年次終了時点で22単位未満）場合は、退学勧告を行います。退学勧告には強制力は有りません。しかし、このまま成績が改善されなければ卒業できない、あるいは途中で除籍となることを警告しています。